

絵本『わたしのなかのちいさなたからもの』

コビ・ヤマダ/作 チャールズ・サントソ/絵 前田まゆみ/訳 パイインターナショナル



わたしの 宝物にしたくなるような絵本です

この本は、読むと、人生を楽しく、今生きているしゅん間を大切にすごしたいと思えるようなじーんと心にひびく絵本です。

ゆめ夢があるなら、ほ欲しいものがあるなら、新しいことを望むなら、一体何をしたらいいのでしょうか。不安や、疑いの気持ちが生

まれた時はどうしたらいいのでしょうか。全ては、だれもが生ま

れながらにして自分の心のなかに持っている力が解決してくれるのです。成長していくなかで忘れそうになりがちですが、みなさんの心のなかには、勇気や希望、愛情、想像力があふれていることを思い出させてくれます。

新しい道に進んでいく6年生におすすめしたい人生のヒントになる言葉がたくさんつまった1冊です。

図書室からのお知らせ

4・5年生へ

今年度最後の貸出日は、修了式のある3月24日（月）です。来年度は始業式のある4月7日（月）から図書室が開いています。春休み前に借りた本は、4月11日（金）までに返しましょう。

6年生へ

今年度最後の貸出日は、3月14日（金）です。男山中学校に進学するみなさんは、八幡小学校の図書室にある本を借りることもできます。なつかしい本を読みたくなったら、中学の先生にたずねてみてくださいね。

6年間たくさん図書室を利用してくれてありがとうございました。

八幡市立八幡小学校 図書室

本のおたより

（4年生～6年生用）



令和7年3月11日最終号

最後にもう1冊読んでみて！

もうすぐ今年度が終わりますね。今年度1年間で、たくさんの分野の本を読み、新しい知識を得たり、心を豊かにしたりすることはできましたか。そして、自分の好きな本を見つけることができたでしょうか。

本のおたよりも今年度最終号です。今年度のうちに読んでみてほしいおすすめの本を紹介するので、最後にもう1冊借りてみませんか。

物語『へそまがりの魔女』 のろうことしかゆるされない魔女と優しさを知らない少女の物語



暗い森に、年老いた魔女が住んでいました。人々は、この魔女にのろいをかけられることをおそれていました。

ある日、魔女の家に、一人の少女が助けを求めて訪ねてきました。少女には帰る家がなかったのです。この日から、魔女と少女はいっ

しょに暮らすことになりました。少女は、ニワトリの世話をしたり、畑を耕したりと、とてもよく働きました。そんな少女に、魔女はそっけない態度をとります。それでも、少女は平気だったのです。なぜなら、少女は、今までだれにも優しくしてもらったことがなく、優しさを知らなかったからです。

しかし、魔女と少女はいっしょに暮らすようになってから、おたがいに何かが変わり始め、初めての感情を覚えたようです。不器用な二人の優しい物語です。

物語『ピトウスの動物園』

サバステア・スリバス/著 ^{ちよ} 宇野和美/訳 ^{うのかずみ} スギヤマカナヨ/絵 ^{あすなる} 書房



小学生の友情が起こした奇跡の物語

スペインに仲良し6人組の男の子達がいまいた。そのなかの1人であるピトウスは、最年少の7才で、いつもにこにこしているので、みんなから愛されている町中の人気者です。

そんなピトウスが重い病気にかかってしまい、遠いスウェーデンの病院に行かなければ治りようがないと言われました。しかし、そんなお金はありません。

そこで、6人組のリーダーのタネットは、動物園をつくって、入場料をピトウスにわたそうというアイデアを思いつきました。早速、協力してくれる子ども達を集めて、動物をつかまえてくる係や、宣伝のポスターを作る係、おりなどを用意する会場係に分かれて、準備を始めます。小学生達がんばっている姿を見て、町の人達のなかにも協力してくれる人が増えていきました。さて、動物園は完成するのでしょうか。

物語『坂の上の図書館』

池田ゆみる/作 羽尻利門/絵 さえら書房

本が人を成長させる！

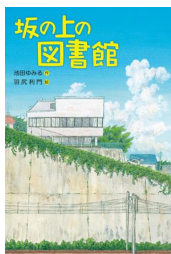
小学5年生の春菜は、消極的で、自分の意見を口にして伝えることが苦手な女の子です。そんな春菜の引っ越し先のとなり市民図書館がありました。

今まであまり本を読んだことがなく、図書館に行ったことがなかった春菜でしたが、そこで行われていた絵本の読み聞かせに気付くと夢中になっていました。

それから、何度も図書館に足を運び、司書にすすめられた物語を読んでいくうちに、主人公の気持ちに感情移入して、一緒にハラハラドキドキしたり、喜んだり、幸せな気持ちになったり、現実の自分と重ねてはげみにしたりと、本にすっかりみりようされていきました。

春菜は、本を読むようになってから、学校での活動にも積極的に参加したり、

自分の意見が言えるようになったり、大切な友人もできたようですよ。



物語『あしたのことば』

森絵都/作 小峰書店



言葉について考えてみませんか？

言葉をテーマにした8つのお話が入っている短編集です。6年生の

国語の教科書にのっている『帰り道』をはじめ、たった2文字の言葉に傷ついた女の子や、心で思っていることを全部口に出す男の子、大好

きなおばあちゃんに言えなかった言葉があり後かいしている女の子、無口だけど音を耳をすませて聞いている女の子など、様々な視点から言葉について考えさせられるような前向きで温かいお話が入っています。

言葉は、時には人を傷つけ、しばり、時には救われ、はげまされたり、ずっと心に残ったり、あしたにつながるような言葉もあります。みなさんは、どんな言葉をつかっているでしょうか。この本を読んで自分を見つめ直してみるのもいいかもしれませんね。

物語『車夫』

いとうみく/作 小峰書店

人の温かさやきずなを感じることができる物語です

家庭の事情で高校を中退した吉瀬走。入部していた陸上部のOBである前原俊平に浅草の「力車屋」での車夫の仕事にさそわれます。車夫というのは、人力車を引く人のことです。初めて人力車に乗った走は、ぼおぼおと音を立てる風の音、車夫のたっただと地面をける足音が心地良く、浅草の歴史や観光スポットのテンポのいい話にもひきこまれました。陸上部で走ることに慣れていたのに、「力車屋」の先輩達のように走ってみたいと思い、車夫の仕事を始めることにしました。

走と同じく家庭の事情をかかえた車夫の先輩達やお客さんと交流していくなかで、いつしか「力車屋」が自分の居場所になっていました。走は、傷ついた分同じように傷ついた思いをしている人にはびん感で、手を差しのべようと、成長していく姿も見られます。

どんなことがあっても救ってくれる人がいて、必ず前を向ける時がある、そんな希望のあるメッセージがこめられた物語です。

